

令和4年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 13		学校名	県立大子特別支援学校										学校長名	大澤 宏規									
副校長名						教頭名	栗木 理伸					事務（室）長名	有馬 勝也											
教職員数	教 諭	22	養 護 教 諭	1	常 勤 師	3	非 常 勤 師	1	実 習 助 手	0	寄 宿 舎 指 導 員	0	事 務 職 員	2	技 術 職 員 等	10	計	39						
幼児・児童・生徒数	部	1年			2年			3年			4年			5年			6年			合計			合計 クラス数	
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
	小学部	2	3	5	2	0	2	2	1	3	3	1	4	3	2	5	4	1	5	16	8	24		6
	中学部	4	0	4	1	2	3	4	2	6										9	4	13		3
合計	6	3	9	3	2	5	6	3	9	3	1	4	3	2	5	4	1	5	25	12	37	9		

2 目指す学校像

<p>「ひらく ～開・啓・拓」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有意義で最適な学びを求めて、自ら外に「開く」学校 ・地域と協働し社会に開かれた教育課程で「啓く」学校 ・子どもの可能性を伸ばし、豊かな人生を「拓く」学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒全員にタブレット端末を配当し、普段の授業はもとより、休業期間中でもオンライン授業やオンデマンド授業を行うことができた。 ○染色クリエイター等の外部人材との協働をとおして、体験を重視した学習活動を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○育成を目指す3つの資質・能力に即した目標設定と3観点による評価。 ○ICTを特別感なく活用した学びの実現。 ○より積極的な地域連携、外部人材活用。
防災・安全	<ul style="list-style-type: none"> ○防災学習に特化したワークショップ型の学習及び校内宿泊学習を実施することができた。 ○新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて授業や給食の対応を柔軟に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実際の災害や緊急事態への適切な対応を想定した体制づくり。 ○新型コロナウイルス感染症対策についての最新情報の職員間での共有
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○十分な感染症対策とICTの活用を検討し、小学部は上小川小学校と、中学部は南中学校と学校間交流を行うことができた。 ○地域のラジオ局や漫画家の協力を得ながら地域への理解啓発と情報発信をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育のセンター的機能の発揮と市町村担当部署及び幼保小中高との連携。 ○地域の社会資源の活用による連携の強化と児童生徒の地域への貢献

教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ○大学教授を迎えての講演会や3ユニットに分かれての授業作りに関する研修を行い専門性向上を図ることができた。 ○定期的なコンプライアンス研修により職員のコンプライアンス意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員全員による社会に開かれた教育課程による授業作り・改善。 ○信頼される教職員であるための規範意識と当事者意識の醸成。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ○共有ドライブの活用により、効率的な情報共有がなされ、業務削減を図ることができた。 ○夏季休業中に年休取得推進週間を設定することで、職員の年休の取得を推進することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○働き方改革のためのハードソフト両面の環境整備。 ○職員に自らの仕事と時間をマネジメントするという意識づけ。

4 中期的目標 (R2～R4)

<ol style="list-style-type: none"> 1 主体的・対話的で深い学びができるような授業改善及びカリキュラムマネジメントに努める。 2 心身ともに健康を保ち、安全・安心に学習できる環境づくりに努める。 3 実践的・体験的な活動の充実を図り、系統的なキャリア教育に関する指導の工夫改善を図る。 4 ICT教育の環境整備に努め、教育とテクノロジーの融合の可能性について積極的に探究する。 5 地域資源を活用し、児童生徒の社会参加や社会貢献の推進を図る。 6 教職員の主体的な研修機会を確保するとともに、働き方改革を推進し、専門性が高く、人間性豊かな教職員の育成に努める。 7 地域のニーズの把握とセンター的機能の見直しを図る。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 学びがい	<ol style="list-style-type: none"> ① 指導の個別化と学習の個別化による個別最適な学びの実現 ② 教職員の専門性向上のための研修の充実 ③ 情報発信と社会資源の活用による地域連携の強化
2 働きがい	<ol style="list-style-type: none"> ① 自立と社会参加を促すキャリア教育の充実 ② 教職員の自助努力と労働環境の改善による働き方改革の実現 ③ 多様な人材との連携・協働による働きがい相互向上
3 頼りがい	<ol style="list-style-type: none"> ① 学校危機対応における体制づくりと環境整備の強化 ② 信頼させる教職員であるための規範意識と行動の徹底 ③ 地域における特別支援教育のセンター的機能の発揮
4 生きがい	<ol style="list-style-type: none"> ① 生活の質の向上につながるスポーツ・文化芸術活動の充実 ② 共生社会の土壌づくりに貢献する交流及び共同学習の推進 ③ 主体的なPTA活動の推進による共育風土の醸成